

不祥事防止研修会実施報告

学 校 名	三次市立三次小学校
研 修 テ ー マ	資料『不祥事防止のための校内研修用事例集（増補版）』を用いて、体罰やいじめについて、自ら日々の職務を振り返ることにより、教育公務員として立場を認識し、自らが公教育を担う教職員であることを自覚する。
研 修 担 当 者	生徒指導部会
研 修 日 時	令和4年 12月1日（木） 15：45～16：10
参 加 人 数	25名
実 施 形 態	協議・ロールプレイ
使 用 資 料 等	■『不祥事防止のための校内研修用事例集（増補版）』（広島県教育委員会）
研 修 の 概 要	1 体罰について 2 事例検討（ロールプレイ） 【事例1 小学校】 愛情があれば少くらい それが間違いのもと (平成25年1月 広島県教育委員会) 3 体罰等根絶のためのチェックシート実施 4 指導講話
研 修 を 終 えて の 気 付 き 等	○子供たちといつも接している職業のため、体罰を起こすかもしれない、身の回りに起こるかもしれないという意識で働いている。体罰は、子供の体だけでなく心も傷つけてしまうことだと自覚して行動していきたい。 ○自分の学級の問題や困っていることを他の先生に相談できるような環境づくりが大切だと思った。 ○暴力を肯定するような学級の雰囲気自体が問題だと思う。 ○A教諭の体罰に対する認識が甘すぎる。 ○体罰は何があっても許されないという認識をもつことが大切。たとえ直接暴力を行っていないなくても、それを容認し、暴力を行わせることも絶対にいけない。